

<IPA 情報発信第 143 号の内容>

I. 今月のトピックス

1. 松本文明内閣府副大臣及び組込み IoT イノベーション議員連盟議員ご来構

松本文明内閣府副大臣が、3 月 3 日 (木) に、組込み IoT イノベーション議員連盟より鶴保幹事長を含む 3 名の国会議員が 3 月 10 日 (木) に、それぞれ視察のため IPA に来訪されました。

2. 「2015 年度 中小企業における情報セキュリティ対策に関する実態調査」報告書を公開

IPA は、中小企業のパソコンやスマートフォンの安全対策状況を把握し、情報セキュリティ向上の活動に役立てることを目的として、業務でパソコンを利用している全国の中小企業で働く 20 歳以上の経営者・IT 担当者・従業員を対象にウェブアンケートを実施し、「2015 年度 中小企業における情報セキュリティ対策に関する実態調査」報告書として、3 月 8 日 (火) に公開しました。

3. 未踏スペシャルイベント「未踏会議 2016」を開催

未踏事業のスペシャルイベント「未踏会議 2016」を「未踏人材が IoT のイノベーションを加速する」をキャッチフレーズに、産業界等における未踏人材の活用が促進され、更なる活躍のフィールドが広がることを目的に 3 月 10 日 (木) にアクトスクエア (東京都渋谷区) で開催しました。

4. 「つながる世界の開発指針」を公開

IPA は、IoT 製品の利用者や製品の安全性・セキュリティを脅かすリスクへの対処を目的として、「つながる世界の開発指針」を 3 月 24 日 (木) に公開しました。

II. セキュリティセンター

1. 「営業秘密管理・保護システムに関するセキュリティ要件調査」報告書を公開
2. 重要なセキュリティ情報 (3 月)

III. ソフトウェア高信頼化センター (SEC)

1. WEB メディア「ビジネス+IT」にインタビュー記事掲載
2. 「ソフトウェア識別管理に向けた分析事業」報告書を公開
3. 「障害未然防止のための教訓化ガイドブック (組込みシステム編)」及び「現場で役立つ教訓活用のための実践ガイドブック (組込みシステム編)」を公開
4. 平成 27 年度 第 3 回 札幌市 IT イノベーション研究会「IoT 時代に向けたイノベーション人材育成」にて講演
5. サイバーセキュリティ研究会 第 4 回研究会「制御システム・IoT 製品のセキュリティ」にて講演
6. 「情報処理システム高信頼化教訓集 (IT サービス編/組込みシステム編)」2 種類の 2015 年度版を公開
7. 「大規模・複雑化した組込みシステムのための障害診断手法 ~モデルベースアプローチによる事後 V&V の提案~ Ver. 2.0」を公開
8. IoT 時代のシステム開発方法論が国際標準として公開

IV. 国際標準の推進

1. 「第 9 回地方自治体における情報システム基盤の現状と方向性の調査」を公開

V. IT 人材育成

1. アジア共通統一試験推進コア人材育成事業「Top Gun プログラム」を実施
2. 「セキュリティ・キャンプフォーラム 2016」の開催
3. 平成 28 年度春期情報処理技術者試験の応募者数について

I. 今月のトピックス

1. 松本文明内閣府副大臣及び組込み IoT イノベーション議員連盟議員ご来構

(担当理事 (本部長) : 川浦、担当理事 (本部長補佐) : 頓宮、担当所長 : 松本)

松本文明内閣府副大臣が、3月3日(木)に、組込み IoT イノベーション議員連盟より鶴保幹事長を含む3名の国会議員が3月10日(木)に、それぞれ視察のため IPA に来訪されました。

松本大臣には、サイバーセキュリティ対策の概要や今後の対応、標的型サイバー攻撃に対処するための取り組みである「サイバー情報共有イニシアティブ J-CSIP (ジェイ・シップ)」、「サイバーレスキュー隊 J-CRAT (ジェイ・クラート)」等についての説明を行いました。

また、組込み IoT イノベーション議員連盟の皆様には、IoT 時代に向けて今後ますます重要性・複雑さを増していく組込みシステム分野における取り組みおよびサイバーセキュリティに関する取り組みについて実演を交えた説明を行いました。

松本文明内閣府副大臣の IPA 来訪の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/announce/20160323.html>

2. 「2015 年度 中小企業における情報セキュリティ対策に関する実態調査」報告書を公開

(担当理事 (本部長補佐、センター長) : 頓宮)

IPA は、中小企業のパソコンやスマートフォンの安全対策状況を把握し、情報セキュリティ向上の活動に役立てることを目的として、業務でパソコンを利用している全国の中小企業で働く 20 歳以上の経営者・IT 担当者・従業員を対象にウェブアンケートを実施し、「2015 年度 中小企業における情報セキュリティ対策に関する実態調査」報告書として、その報告書を3月8日(火)に公開しました。

IPA では中小企業の 20 歳以上の経営者・IT 担当者・従業員を対象に、対策状況についてウェブアンケートを実施し、その結果、規模が小さい企業ほど情報セキュリティ対策の不備が浮き彫りとなりました。今回の調査結果の主なポイントは以下のとおりです。

- ・小規模企業の過半数 (50.3%) が社員の私物のスマートフォンやタブレット端末の業務利用 (BYOD¹) を認めている。
- ・「組織的に情報セキュリティ対策担当者がある」と回答した小規模企業は 19.6% で、全体平均 (44.6%) の半数にも満たない。

「2015 年度 中小企業における情報セキュリティ対策に関する実態調査」報告書の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/about/press/20160308.html>

¹ Bring Your Own Device: 私物のパソコン等機器を職場に持ち込み業務に使用すること。

3. 未踏スペシャルイベント「未踏会議 2016」を開催

(担当理事(本部長):川浦、担当センター長:片岡)

IPAは、未踏事業のスペシャルイベント「未踏会議 2016」を3月10日(木)にアクトスクエア(東京都渋谷区)で開催しました。

「未踏会議」と銘打ったイベントとしては第二回目となる今回は、「未踏人材がIoTのイノベーションを加速する」をキャッチフレーズに、産業界等における未踏人材の活用が促進され、更なる活躍のフィールドが広がることを目的に行ないました。

イベントでは「IoTラボセレクション²」受賞企業3社による特別講演の他、未踏事業を卒業しIoT関連で事業化しているクリエイターがプレゼンテーションやパネルディスカッションを行いました。

当日は90名以上の方々のご参加をいただき、またニコニコ生放送では約1万7千アクセスもの視聴をいただきました。

本会議に参加された方からのアンケートでは、「どの方のお話も非常に面白く興味深く、ITが世の中、生活を便利に、面白くしていきそうという期待や希望を感じることができた」や、「未踏人材の方々が一同に会し、『これからどのような人材が活躍するか、必要か』という議論をする場合は、大変重要な議論だと感じた」など、様々な意見が多数寄せられました。

未踏会議の詳細については、次のURLをご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/jinzai/mitou/2015/mitoukaigi2016.html>

4. 「つながる世界の開発指針」を公開

(担当理事(本部長):川浦、担当所長:松本)

IPAは、IoT製品の利用者や製品の安全性・セキュリティを脅かすリスクへの対処を目的として、「つながる世界の開発指針」を3月24日(木)に公開しました。

本開発指針は、IoT製品の開発者が開発時に考慮すべきリスクや対策に関する検討結果を取りまとめたもので、企画・設計から運用までの製品の開発ライフサイクル全体において考慮すべきポイントを全17の指針として明示したものです。また、本開発指針の普及促進を目的に、「IoT推進コンソーシアム³」に対して、本開発指針の採用を積極的に提案していく予定です。

本開発指針の普及を通じてIPAは、より一層、安全・安心なIoT製品の開発が進み、利用者である国民一人ひとりが安心してIoT製品を活用できる環境整備につなげていきます。

² IoT推進ラボがIoTを活用したプロジェクトを広く募集し、第1回先進的IoTプロジェクト選考会議において、優れたプロジェクトを選定、政府関係機関、金融機関やベンチャーキャピタルなどの支援機関と連携し、支援を行う。

³ 産学官が参画・連携し、IoT推進に関する技術の開発・実証や新たなビジネスモデルを創出・推進するために2015年に設立された組織。2016年3月15日時点の法人会員数は1,806社。<http://www.iotac.jp/>

「つながる世界の開発指針」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/sec/reports/20160324.html>

Ⅱ. セキュリティセンター

1. 「営業秘密管理・保護システムに関するセキュリティ要件調査」報告書を公開

(担当理事 (本部長補佐、センター長) : 頓宮)

IPA は、営業秘密管理指針の管理要件を満たすセキュリティ機能を明らかにするため、「営業秘密管理・保護システムに関するセキュリティ要件調査」を実施しました。また、特に中小企業に対し、営業秘密管理・保護システムとして必要最低限のセキュリティ機能を示すために、その報告書を 3 月 4 日 (金) に公開しました。

本調査では、営業秘密管理・保護システムに関する動向調査及び法的保護等のためのセキュリティ要件の調査を実施しました。また、今後、共通的な要求仕様の参考とするために、実装すべきセキュリティ機能や前提条件等を、セキュリティ評価基準の国際標準である ISO/IEC 15408 に従い記述し、セキュリティ要求仕様書 (営業秘密管理 PP (案)) にまとめました。

「営業秘密管理・保護システムに関するセキュリティ要件調査」報告書の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/security/fy27/reports/eigyopp/20160304>

2. 重要なセキュリティ情報 (3 月)

(担当理事 (本部長補佐、センター長) : 頓宮)

IPA では、インターネットを使っている多くの利用者が影響を受けるセキュリティ対策情報を対象に「重要なセキュリティ情報⁴」として公開しています。

「重要なセキュリティ情報」とは、放っておくと不正アクセスやデータが盗まれるなどの危険性が高いセキュリティ上の問題と対策についてお伝えするもので、IPA 情報発信では 2013 年 12 月より広く啓発するため記載しています。発信情報から、ご自身の PC やシステムへの影響を判断の上、速やかな対策を心がけてください。

3 月は、「緊急」1 件、「注意」3 件を公開しました。

重要なセキュリティ情報の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/announce/alert.html>

⁴ 「重要なセキュリティ情報」は、次の基準で対策の緊急度を表しています。

「緊急」・・・影響度の高いセキュリティ上の問題があると公表された情報でかつ、当該問題を悪用した攻撃が実際に行われているケース。

「注意」・・・影響度の高いセキュリティ上の問題があると公表された情報又は、当該問題を悪用した攻撃が行われる可能性があるケース。

Ⅲ. ソフトウェア高信頼化センター (SEC)

1. WEB メディア「ビジネス+IT」にインタビュー記事掲載

(担当理事 (本部長) : 川浦、担当所長 : 松本)

WEB メディア「ビジネス+IT」に「STAMP⁵とは何か? IPA/SEC 松本隆明 所長に聞く CPS/IoT 時代の安全性開発モデル」として3月17日(木)に掲載されました。

松本所長はCPS(サイバーフィジカルシステム)およびIoTについて解説し、想定される課題とそれに対するIPAの取組みを、安全性解析手法STAMPを中心に紹介しました。

IPAでは取材内容が記事となることで、IoT時代の課題とその対策についての企業の関心が高まり、より安全・安心なサービスや製品の開発・運用につながることを期待しています。

本件の詳細については次のURLをご覧ください。

<http://www.sbbit.jp/article/cont1/31840>

2. 「ソフトウェア識別管理に向けた分析事業」報告書を公開

(担当理事 (本部長) : 川浦、担当所長 : 松本)

IPAは、ソフトウェアの脆弱性が判明し、公表された際の各企業の迅速な対策を支援することを目的に、「ソフトウェア識別管理に向けた分析事業」報告書を3月9日(水)に公開しました。

本報告書は、脆弱性が見つかったソフトウェアを自社の製品やシステムで使用しているかどうかを把握するための「ソフトウェア識別管理」の実現に向けた第一歩として、各事業者におけるソフトウェア管理の実態調査や調査を通じた課題の抽出を行い、その結果をまとめたものです。

IPAでは、本報告書の作成・公開を通して、各企業のソフトウェア識別管理活動の支援につなげていきます。

「ソフトウェア識別管理に向けた分析事業」の詳細については、次のURLをご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/sec/reports/20160309.html>

⁵ STAMP: Systems-Theoretic Accident Model and Processes 複雑なシステムに対する安全性解析の手法の一つ。ここで言うシステムとはITシステムに限らず、機械部品や機械そのもの、人、環境など、複数の人や物が連携することによって成り立つ仕事や機構全てを指す。

3. 「障害未然防止のための教訓化ガイドブック（組込みシステム編）」及び「現場で役立つ教訓活用のための実践ガイドブック（組込みシステム編）」を公開

（担当理事（本部長）：川浦、担当所長：松本）

IPA は、組込みシステム分野における障害防止に重要な企業間・業界内の情報共有活動を実践的なノウハウで支援することを目的として、「障害未然防止のための教訓化ガイドブック（組込みシステム編）」及び「現場で役立つ教訓活用のための実践ガイドブック（組込みシステム編）」を3月31日（木）に公開しました。

両ガイドブックは、自社内で発生した障害事例とその再発防止策等をもとに自社で「教訓」を作成し、それらの教訓を企業間や業界内で共有し、活用するための方法を解説するものです。

IPA では、両ガイドブックの普及を進めることで、信頼性の高い組込みシステムの構築・実現につなげていきます。

両ガイドブックの詳細については、次の URL をご覧ください。

http://www.ipa.go.jp/sec/reports/20160331_3.html

4. 平成 27 年度 第 3 回 札幌市 IT イノベーション研究会「IoT 時代に向けたイノベーター人材育成」にて講演

（担当理事（本部長）：川浦、担当所長：松本）

IPA は、3月11日（金）に札幌市エレクトロニクスセンター（北海道札幌市）で行われた平成 27 年度 第 3 回 札幌市 IT イノベーション研究会「IoT 時代に向けたイノベーター人材育成」にて講演しました。

本研究会は、一般財団法人さっぽろ産業振興財団の主催による、札幌市内の中小ソフトウェア事業者などを対象に、IT とビジネスを有機的に結びつけ、札幌の産業にイノベーションを起こす「IT イノベーション融合人材」の育成・活用を進めることを目的とした講演会で、IPA は、「イノベーターな IT 人材の育成に向けて」および「つながる世界（IoT 時代）の実現に向けた取り組み」というテーマで講演を行いました。

当日は 46 名の方に来場いただき、盛況のうちに終了しました。

IPA では、この結果を基に今後も講演活動を継続していきます。

平成 27 年度 第 3 回 札幌市 IT イノベーション研究会の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.sapporo-it-pro.jp/AttachedFile.aspx?id=424&c=1>

5. サイバーセキュリティ研究会 第4回研究会「制御システム・IoT製品のセキュリティ」にて講演

(担当理事(本部長):川浦、担当所長:松本)

IPAは、3月22日(火)にティーオージー貸会議室(大阪府大阪市)で行われたサイバーセキュリティ研究会 第4回研究会「制御システム・IoT製品のセキュリティ ～「つながる時代」におけるセキュリティ推進体制と製品開発～」にて講演しました。

本研究会は、一般財団法人関西情報センター(KIIS)の主催による、IoT製品や制御系システム・ネットワークのセキュリティについて先進的な取り組みを行う産官学それぞれの有識者が講演とパネルディスカッションを行うものです。IPAは「つながる世界(IoT時代)に向けた取り組み」というテーマで講演しました。

当日は38名の方に来場いただき、多くの方から参考になったとの意見をいただきました。

IPAでは、この結果を基に今後も講演活動を継続していきます。

サイバーセキュリティ研究会 第4回研究会の詳細については、次のURLをご覧ください。

<https://secure.kiis.or.jp/cybersecurity/event.html>

6. 「情報処理システム高信頼化教訓集(ITサービス編/組込みシステム編)」2種類の2015年度版を公開

(担当理事(本部長):川浦、担当所長:松本)

IPAは、重要インフラに関わるシステムにおける類似障害の発生防止と影響範囲の縮小を目指し、障害情報とその対策をそれぞれ普遍化した「情報処理システム高信頼化教訓集(ITサービス編/組込みシステム編)」の2015年度版を3月31日(木)に公開しました。

本教訓集は、2014年5月および2015年3月に公開した同教訓集の内容を拡充したもので、システム障害の情報やその対策を、企業・業界を超えて広く共有することを目的に、システム障害の各事例から対策等の要となる部分を抽出、抽象化し、「教訓」として業界横断的に活用できる形にして取りまとめたものです。

2015年度版は、海外の事例を含む新たな教訓を追加収録したほか、STAMPをはじめとする最新の障害分析手法解説の拡充など、より障害対策の参考として活用できるものとなっています。

「情報処理システム高信頼化教訓集(ITサービス編/組込みシステム編)2015年度版」の詳細については、次のURLをご覧ください。

【ITサービス編】http://www.ipa.go.jp/sec/reports/20160331_1.html

【製品・制御システム編】http://www.ipa.go.jp/sec/reports/20160331_2.html

7. 「大規模・複雑化した組込みシステムのための障害診断手法 ～モデルベースアプローチによる事後 V&V の提案～ Ver. 2.0」を公開

(担当理事 (本部長) : 川浦、担当所長 : 松本)

IPA は、「大規模・複雑化した組込みシステムのための障害診断手法 ～モデルベースアプローチによる事後 V&V の提案～ Ver. 2.0」を 3 月 31 日 (木) に公開しました。

本手法は、2015 年 3 月に公開した同手法を、障害原因診断フレームワーク (事後 V&V⁶) の有効性を示す内容を盛り込んで改訂したものです。今回の改訂により、開発当事者でない第三者でも障害の原因推定を行うことが可能となった他、改訂に合わせて追加した検証用サンプルシステム (手引書とソースコード) は原因診断を行うための人材育成にも利用可能です。

IPA では、今後も本手法の普及・拡充を図っていくことで、システム障害の迅速な解決と再発防止に貢献していきます。

「大規模・複雑化した組込みシステムのための障害診断手法 ～モデルベースアプローチによる事後 V&V の提案～ Ver. 2.0」の詳細については、次の URL をご覧ください。

http://www.ipa.go.jp/sec/reports/20160331_4.html

8. IoT 時代のシステム開発方法論が国際標準として公開

(担当理事 (本部長) : 川浦、担当所長 : 松本)

IPA は、IoT 時代に対応したコンシューマデバイス⁷の機能安全のための開発方法論を複数の企業・研究機関等と共同で提案しており、この度、本開発方法論が 2016 年 2 月に OMG⁸からの正式な国際規格として 2 月 1 日 (月) に公開されました。

本規格は、コンシューマデバイスの安全性・可用性を企画・設計から運用までのライフサイクル全体を通して保証するための体系的な枠組みであり、機能安全等の国際規格との整合性を持ち、わが国に広く浸透している開発形態とも融和性の高いものです。

IPA では、本規格がコンシューマデバイス分野において広く活用され、ソフトウェアの信頼性向上に寄与する事を期待します。

本件の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/sec/info/20160328.html>

⁶ 検証と妥当性確認 (verification and validation)

⁷ 自動車、サービスロボット、スマートハウス、スマート家電等、一般消費者が使用する、組込みシステムにより高機能化された機器

⁸ Object Management Group (コンピュータ業界の非営利の標準化団体)

IV. 国際標準の推進

1. 「第9回地方自治体における情報システム基盤の現状と方向性の調査」を公開

(担当理事(本部長):川浦、担当センター長:田代)

IPAは、「第9回地方自治体における情報システム基盤の現状と方向性の調査」を実施し、その結果を3月31日(木)に公開しました。

本調査は、地方自治体における情報システムの利活用状況の現状を把握することを目的に、2007年度より継続して実施しています。

今年度は、閣議決定「世界最先端IT国家創造宣言⁹」に基づき、電子行政分野におけるオープンな利用環境整備に向けたオープンデータの取り組み状況を主に調査を実施しました。IPAが進めている文字情報基盤や共通語彙基盤の活用状況とともに、各自治体でのオープンデータの取り組み状況を確認することができます。

第9回地方自治体における情報システム基盤の現状と方向性の調査の詳細については、次のURLをご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/osc/research/jichitai.html>

V. IT人材育成

1. アジア共通統一試験推進コア人材育成事業「Top Gunプログラム」を実施

(担当理事(本部長):川浦、担当本部長補佐:小川)

IPAは2月22日から3月2日までの10日間、アジア共通統一試験(ITPEC試験)のトップ合格者等14名を招聘し「Top Gunプログラム」を実施しました。

Top Gunプログラムは、アジア各国の優秀な人材が日本のIT企業等でのワークショップ参加を通じ、日本のIT企業特有の商慣習、開発現場の課題及び解決法等を学ぶとともに、日本企業との交流を図りました。本プログラムは、ITPEC試験における特に優秀な人材を、同試験のさらなる発展等に向けた推進リーダーとして育成するとともに、ITPEC各国の試験実施機関と日本のIT企業との連携体制構築等に係る協力者、推進役として育成することを目的としています。

プログラム最終日には、IPA理事長より「ITPECアンバサダー」の任命証及び徽章が授与されました。本事業を通じてITPEC試験合格者及びITPEC試験実施機関と我が国IT企業との連携が進むことを期待します。

2. 「セキュリティ・キャンプフォーラム2016」の開催

(担当理事(本部長):川浦、担当センター長:片岡)

IPAは、セキュリティ・キャンプ実施協議会と共催で「セキュリティ・キャンプフォーラム2016」を3月4日(金)にフクラシア東京ステーション(東京都千代田区)で開催しました。

⁹ 2013年6月14日閣議決定、2015年6月30日改訂「世界最先端IT国家創造宣言」(内閣官房IT総合戦略室)
(<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/kettei/pdf/20150630/siryou1.pdf>)

本フォーラムは、セキュリティ・キャンプ修了生の年度を超えた交流、産業界での認知度向上と活躍支援を目的に、毎年開催しているものです。

当日の来場者数は、修了生やセキュリティ・キャンプ実施協議会の会員企業の方を中心に 81 名あり、基調講演では北陸先端科学技術大学院大学の篠田教授より、サイバーセキュリティ人材に求められるものに関する講演を頂きました。また、修了生によるセキュリティ・キャンプ修了後の技術的な活動状況の講演がありました。

「セキュリティ・キャンプ」では、サイバーセキュリティの専門教育にとどまらず、今後も人的交流の機会を提供することで、将来の産業界で活躍するエキスパートの継続的な育成に取り組めます。

「セキュリティ・キャンプフォーラム 2016」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/jinzai/camp/2015/forum2016.html>

3. 平成 28 年度春期情報処理技術者試験の応募者数について

(担当理事(本部長)：川浦、担当センター長：高橋)

IPA は、平成 28 年度春期情報処理技術者試験(所管：経済産業省、4 月 17 日(日)実施)の応募者数を 3 月 16 日(水)に公表しました。

平成 28 年度春期情報処理技術者試験(以下、平成 28 年度春期試験)の応募者数は、前年同期比 110.8%の 200,921 人となりました。

組織内の「情報セキュリティマネジメント人材」育成・確保のための新たな国家試験として創設された情報セキュリティマネジメント試験は、初回試験から応募者数が 22,903 人と多くの申込みがありました。受験申込時のアンケートでは、同試験応募者の勤務先情報は、IT 系以外の業種が 4 割を超えており(無記入除く社会人 17,451 人を集計)、一般企業における情報セキュリティに対する意識の高まりがうかがえます。

また、高度試験のうち、情報セキュリティスペシャリスト試験の応募者数は 27,769 人(前年同期比：101.6%)となっており、平成 26 年度秋期試験以降、4 期連続で前年同期比が増加しました。

各試験区分の応募者数は以下のとおりです。

試験区分	応募者数	前年同期 応募者数	前年同期比
総数	200,921	181,313	110.8%
情報セキュリティマネジメント試験	22,903	-	-
基本情報技術者試験	64,904	65,570	99.0%
応用情報技術者試験	46,147	47,050	98.1%
高度試験	66,967	68,693	97.5%
プロジェクトマネージャ試験	16,608	17,360	95.7%
データベーススペシャリスト試験	14,525	15,355	94.6%
エンベデッドシステムスペシャリスト試験	4,326	4,627	93.5%
情報セキュリティスペシャリスト試験	27,769	27,339	101.6%
システム監査技術者試験	3,739	4,012	93.2%

応募者・受験者・合格者の推移など統計に関する詳しい情報は、次の URL をご覧ください。

http://www.jitec.ipa.go.jp/1_07toukei/_index_toukei.html

<p>問合せ先 独立行政法人 情報処理推進機構 戦略企画部 企画・調査G 笛木・中山 〒113-6591 東京都文京区本駒込二丁目 28 番 8 号 文京グリーンコートセンターオフィス TEL : 03-5978-7503 E-mail : spd-plan@ipa.go.jp</p>
